

旧大内村役場 真岡市飯貝



正面からの建物の様子

れ、芳賀郡市のなかでは最も古い本格的鉄筋
コンクリート^{つくり}造の建物になります。アーチ
型のデザインや直線的な屋根のつくりなど
に、昭和初期の日本の近代建築の様子が現^{あらわ}
れています。現在は、大内資料館^{しりょうかん}として活用
されています。

旧大内村は、明治22年（1889年）に
飯貝^{いいがい}村、京泉^{きょうせん}村、田島^{たじま}村、上大田^{おほおの}和村、堀^{ほり}
内^{うち}村、下大田^{したおの}和村、上鷲^{かみさぎのや}谷^や村、下鷲^{しもさぎのや}谷^や村、
下籠^{しもこもり}谷^や村、清水^{しみず}村、原町^{はらまち}新田、赤羽^{あかばね}新田が
合併し成立し、昭和29年（1954年）に
真岡町^{まのく}が発足するまで存在しました。この建
物は、昭和4年に大内村役場として建てら



横から見た建物の様子